

現代若者考 実践と実証のコラボレーション

日本教育心理学会第50回総会
自主シンポジウムC4
2008.10.11

1

企画趣旨

青年期の
実証研究



若者に対
する実践
的支援

2

平均値的データはどこまで実践に 関わりうるのか？

現代青年の特徴に関する
データをもとに

岡田 努

3

青年期の人格発達的前提

- 青年期は疾風怒濤の時期であり、情緒的に不安定になる
- 青年は自己に内省的になるものである
- 青年は内面的に深い友人関係を取ることを希求する。
- 青年は自分自身の生き方について深刻に悩み、試行錯誤を繰り返す。
これらを経て、青年は健全な人格発達を達成する

4

現代の青年の特徴？

- 内省傾向や深い友人関係を避ける
健全な発達をとげていない？

5

自己の発達

- 可視的屬性(持ち物, 身体的特徴, 運動能力)から, 不可視的で抽象的な屬性(対人関係, 信念, 性格特性など)に移行
- どの領域の自己との関わりがあるか？

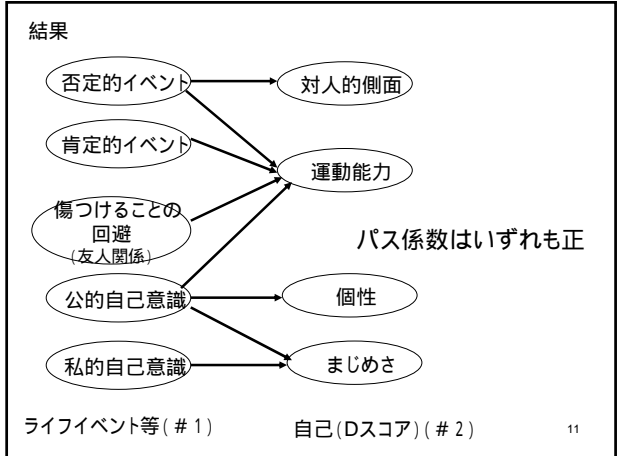
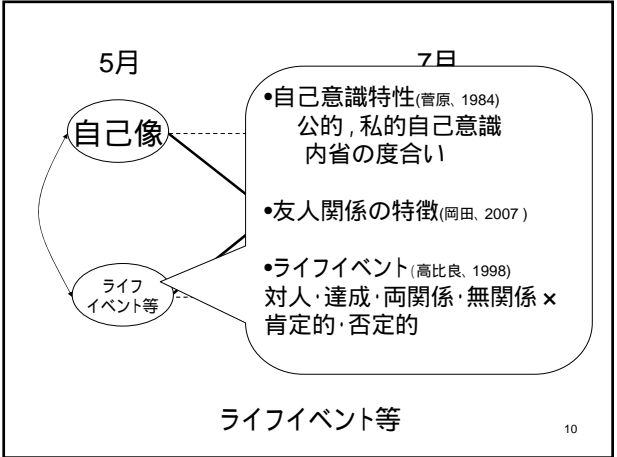
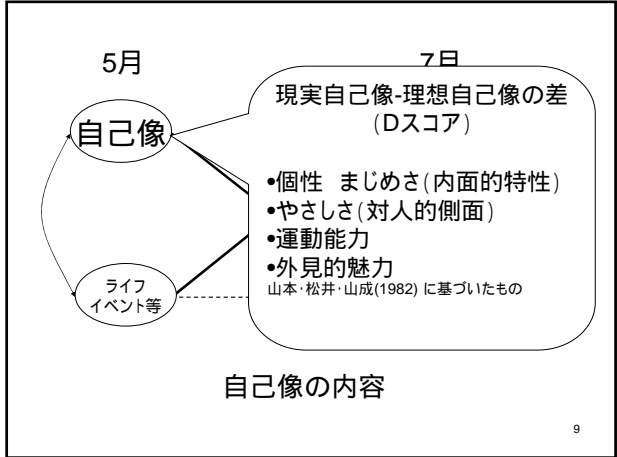
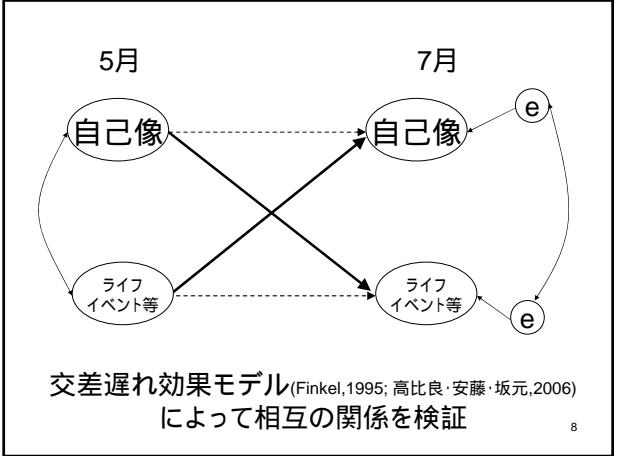
6

調査データ
 調査時期 2003年5月および7月
 大学学部の授業内で実施

2回の調査ともに回答があった112名
 (男子71名、女子41名 年齢18~22歳)を
 検討対象

・このデータは平成13-16年度 科学研究費 基盤C-2一般 課題番号 13610123
 「青年期危機が人格的発達に及ぼす効果に関する研究」の補助金を得て
 実施されたものの一部である

7



引用文献

Finkel, S.E. (1995). *Causal analysis with panel data*. Thousand Oaks, CA: Sage.

岡田努 (2007). 大学生における友人関係の類型と、適応及び自己の諸側面の発達に関連について パーソナリティ研究, 15, 135-148.

菅原健介 (1984). 自己意識尺度 (self-consciousness scale) 日本語版作成の試み 心理学研究, 55, 184-188.

高比良美詠子 (1998). 対人・達成領域別ライフイベント尺度 (大学生用) の作成と妥当性の検討 社会心理学研究, 14, 12-24.

高比良美詠子・安藤玲子・坂元章 (2006). 縦断調査による因果関係の推定: インターネット使用と攻撃性の関係 パーソナリティ研究, 15, 87-102.

山本真理子・松井豊・山成由紀子 (1982). 認知された自己の諸側面の構造 教育心理学研究, 30, 64-68.

12